

東京 IPO 特別コラム

2017年11月1日 Vol.101

21年ぶりの日経平均2万2000円台乗せ

海外株高に歩調を合わせる形で10月の日経平均は堅調に推移。有事を懸念した夏相場の中で8月29日についた安値から2か月間で約14%の上昇を示し、2万2000円台乗せとなり21年ぶりの水準となってきました。本日から11月に入りますが、トランプ大統領訪日歓迎相場とも言うべき展開の中で、年末年始とも言われる有事発生の懸念を横目に市場関係者からは来年3月までに2万5000円との強気の声が出始めました。こうした観測を受けて月初も続伸の動きが見られます。

日銀の低金利政策が継続する中での今回の株高は指数の上昇に寄与する大型主力銘柄を中心にしたもので、限られた一部の銘柄の株高によるところが大きく機関投資家主導の展開と言えます。先行して上昇してきた東証2部(524銘柄)やJASDAQ指数(705銘柄)などの中小型株指数にようやく日経平均(225銘柄)やTOPIX(2032銘柄)が追い付いてきたとの印象があります。こうした相場展開の中でIPO銘柄を運用の対象とされている個人投資家の皆様にとってはやや物足りないとの印象を持たれているのかも知れません。直近のIPO銘柄が数多く含まれるマザーズ指数(246銘柄)はまだ、昨年4月高値や本年6月の高値を抜けないまま推移しており、決して全面高には至っていない点にむしろ着目したいと思います。

これは今後IPOしてから売り圧力が強く比較的業績が堅調なのに株価が低落傾向にある銘柄への見直しにつながると期待されます。本コラムではそうした銘柄をピックアップして皆様にご報告申し上げたいと考えております。その中でも東京IPOのサイトからも企業情報が見出せるIoT関連のトランザス(6696)や株価低迷が続いてきたスマホ向け電子コミックサービス「まんが王国」を展開するピーグリー(3981)などの反転の兆しが見え始めた銘柄群に新たな可能性が感じられます。ただ、10月31日に業績の大幅下方修正を行ったベガコーポレーション(3542)のような事例もあって業績面の動向には絶えず注意が必要です。このように全体相場が堅調な中で個別銘柄には二極化の流れが感じられます。

10月後半のIPO銘柄は4銘柄で東証2部上場のCasa(7196)を除くと3銘柄がマザーズ市場にIPO。初値はいずれも公開価格に対して2倍前後の水準で取引が開始されるなど堅調でしたが、その後の高値形成後は早くも初値割れの展開が見られます。11月は15日のシー・エス・ランバー(7808・JQ)以下サインポスト(3996・M)、ポエック(9264・JQ)、幸和製作所(7807・JQ)、クックビズ(6558・M)、トレードワークス(3997・JQ)のIPOが予定されています。例年通りラッシュが予想される12月のIPOの前哨戦ともなる11月のIPO市場の動向にも関心をもって見守りたいと思います。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)